

みんなヒッピーになったらいいのに



ピースフル・ヒッピーマーケットを主宰する
さやかちゃん

今月号はヒッピー特集ということにした。それは本誌に日本のヒッピーの歴史を連載途中で亡くなったポンこと山田塊也さんの本『アイアムヒッピー』の増補改訂版が出版され、その記念イベントが各地で開かれ盛り上がりがあったそうなので、その報告がてら今の時代にとって(また未来に)ヒッピーがどういう意味を持っているのかを考えたと思うたからだ。そして特に若い世代がヒッピーにどういうイメージを抱いているのだろうと置いていたところ、先月、広島県の府中市でピースフル・ヒッピーマーケットというお祭りが開かれたので、主催者のさやかちゃんにお話を伺ってきた。若い人がわざわざヒッピーと名乗った祭りをすることに興味をひかれたからだ。今年で4回目ということのお祭りは名前からわかるように出店が中心だがライブ演奏やワークショップ、映画、パフォーマンスなど幅広い内容で主に中国四国九州関西などから人やお店が集まってきた。(あ)

——この会場の場所はいいところですね。

そうそう、ここには管理人さんが2人いるんですが、キャラがめちゃくちゃ良くて、やさしくしてもらって。机を借りてきてくれたりとか、グッドハートな方たちに出会えて、ほんとすてきな場所です。今までは私が住んでる福山市の市が管理している場所を借りてましたが、駐車場の問題があって。福山も祭り系の友達が多くて、アーティストもけっこう多いし、すてきな染め物をやる子とかガラスでニューヨークで個展やった人とか、なかなか福山もセンスのいい人が多くてね。

——もともとヒッピーマーケットを始めようと思ったのはどうしてですか？ きっかけとか理由はあったんですか？

もともと自然がすごい好きで、自分で何でも基礎からモノづくりをやるのが好きで、これはどうやって作るんだろうとかいうのを考えるのがめっちゃくちゃ好きで…。カフェを開きたくて、お金ためるために東京に4年間くらい行ってたんです。その時にだんだん自分の趣味というのがかたまってきた、それまでは自分が何をしたいのかもわからん若者だったんです。21、22の時に、で、なにかきっかけがあってカフェ開こうって決めて、それから東京に行ったんだけど、そしたらいろいろ刺激的なものがあって、代々木公園とかでアースデイとか

アースガーデンとかやって、「あ、私の好きなものがいっぱいある」って思って、「なるほどなるほど、私これが好きだ、あれが好きだ」てだんだん明確になってきて、そこで目覚めたんです、きつと。

それでカフェ開くためにこっちに帰ってきたんだけど、福山にはそういったものがなくて、ないと思ってたというか、そういう仲間がいるとも思ってなかったんです。それで自分もモノづくりするから、出店で何かいいところないかなー、祭りもないしな。じゃあなかったら作るかって思うようになって作ったんです。それがきっかけかなー。

今はお金をかけて遊ぶというのが主流だと思うんですけど、でもそうじゃないんだよってことが言いたくて、それで料金も安くして、子どもも大人もおじいちゃん、おばあちゃんもみ〜んな来れるようなものにしたくて、そして自然の中で過ごすことで、今の世の中ではだんだん少なくなってきた、薄れているような勘とかそういうものを…自然の中で何かしようとする、あれがないこれがないとなつて、とにかく知恵を絞らんと生きていけんというか、何もできないというのがあったから、そういうのを祭り系の人ではなく、他の人にもっと広めたかったんです。そういう目的があったんです。

——それにしてもヒッピーマーケットっていう名前になったのはどうしてですか？

そうそう、私、特にヒッピーがどういうもんかとか詳しく知ってるわけじゃないんだけど、なんとなくいろいろ本を読んでたり、好きなものをさぐっていたりしてると、これヒッピーか？みたいなかんじで、それでモノづくりが好き、自然回帰だとか、ヒッピーにひっかかるキーワードがありますよね。それに近いと思って。

昔、一番最初に就職して働いたのは病院だったんだけど、「若いもんは絶対できてないから…」みたいな偏見があるような古い会社で、よういじめられたんです。その時に、通勤する格好を「ヒッピーみたいなな」って注意されたりして、「あなたちょっとそれどうにかした方がいいわよ」とか、けっこう悪口系に言われてたんだけど、ヒッピーの何がいけないかわからなかったんです。でもそうは言う人もおるけど、ヒッピーマーケットにしようって思った時もヒッピーというキーワードが別に悪いとは何も思わなくて、すーっと響きが好きだったのか、なんかこうピンと来るものがあったんです。

でも私、別にヒッピーじゃない、アイアムノットヒッピー、です。(笑)

——ヒッピーマーケットというとなんか濃そうな人達が集まってくるような祭りかなと思ってましたが。

うんうん、出店者はみんなつわもの揃いっていうか、芸術家の集まりだし、ご飯屋さんも自然農で育てたナニガシを使ってた

り、自家製の酵母を使って発酵させてどうか、もうプロフェッショナル揃いです。

—— 出店者はこのへんの周辺の人が多いんですか？

そうですね。一番遠くて岐阜県かな、向こうは九州の福岡、あとは四国全土から、関西も大阪とか。

—— 世代的にはどうですか？

そうじゃねー。私いま32なんだけど、平均して30代が多いんじゃないかな。あとはとろんとかアーチとか、そのあたりがいるかな。若者はおらんですね、20代が。

—— 子どもは多そうですね。

犬と子どもは多いです。(笑)

—— そういえば犬が放し飼いの状態なのでおおーっと思いました。他の祭りでは必ずつないで下さいって言うところが多いから。

そうか。そうよな。この祭りではつないで下さいって注意したことは一回もなくて、ここの管理人さんからは犬の糞は気をつけてねって言われたけど、もしあっても私全部ひるって歩きます。(笑) つないだ方がいいのかな。今のところ運良く何の事件もないし、まだまだ4回目ですから勉強しながらやっています。

—— さやかちゃんにとってヒッピーのイメージは？

ヒッピーって、人間が生きる一番いい例じゃないかなと思うのよね。これはあくまで私の答えね。たぶんみんながヒッピー的に生きていけば、地球っていうのはただそのままの状態であり続けるだけ……それだけでいいと思うの。それを壊さんためには、人間はもっと謙虚になって、動物とか植物と協力しあって自然のサイクルの中に入って生きていかんといけんのじゃないかなーと思う。今の日本とか世界を見ていると、やっぱどうなの？って。このままいったら地球ってもうあり続けられないんじゃないかなーと思うんですよ。

でもヒッピー的な生き方ができれば、戦争もないじゃろうしね。ヒッピーは戦争しないでしょ。で、自然を大事にするでしょ。で、LOVEでしょ。サイコーですよ。(笑) ヒッピーの中で愛ってキーワードじゃないかなって思うんです。それさえ大事にできれば、この世の中はもちろん平和だし、もういいことづくめよね。(笑) 理想の世界ができるんじゃないかな。みんなヒッピーになったらいいのって思う。

ただいろんな人がおっいていいと思うよ。ケミカルなお菓子もおいしかったりするし。(笑) 自然だけじゃないと思う。今までにできあがってきた文明とか、人間てすごいことできるから、それは与えられた力だと思っし、いいように使えばいい。

祭りのサイトの中の「この村に入るときやくそく」には次のように書かれている。
①すれ違う人みんなににっこり笑ってあいさつをしましょう。
②フード、ドリンク以外のゴミはすべて家に持ち帰りましょう。
③困っている人がいたら助けてあげましょう。
④たのしいと思ったことは全部やってみましょう。
⑤ベビーフードとこどもキャンプ以外の飲食物の持ち込みは禁止です。出店してくれるナイスなお店で買いましょ!!

★インタビューの最中にまわりでうろろろしていたさやかさんの子どもはポンちゃんと呼ばれていた。それは妊娠中におなかをポンと出していたことや、妊婦で大鹿村に行った時にポン(アイアムヒッピーの)ことからあだ名が決まってしまうと、それからずっとポンちゃんと呼んでいるそうだ。

—— そのへんの人達は昔から知ってた？

いえいえ、それまで祭りって行ったことがなくて、私がヒッピーマーケットをはじめからです。恥ずかしながらぜんぜん知らなくて。東京で味わったあの楽しい文化をぜんぶ統合したりして、これ好きあれ好き、雰囲気こんな好き、そういうかんじで作ってきたんです。

ヨガなんかもぜんぜん詳しくなかったけど、みんなでヨガするの面白いじゃん、夕暮れにみんなでヨガしたら最高に気持ちいいんじゃないかなーと思って。ここにだいたい1000人くらいくるんだけど、興味のある人たちがばーっと集まって、最終的に手をつないでマントラ唱えたりするんだけど、すごく気持ちよくなって。その光景は見ててもなか

なかい。自然とつながっているというのを体感するんだよね。そういう世界があるんだなーっていうのを。

—— サイトを見てたら、天然酵母のパン食い競争とかもやるみたいですね。他にはどんなことやるんですか？

今年は子どもだけのキャンプをあそこのタイプでやって、ご飯作ったり、何か道具がないなとなったら道具を自分たちで工夫して作ったり、ただただ遊び続ける。子どもたちが自分たちだけで、どんだけ遊べるのかなーって企画したんだけど。あとは種の交換会か。

—— 在来品種の種の交換ですか？

そうそう。でもねえ、お客さんでそういうのにこだわってない方も来られるから、そういう方たちもいっしょに混じってもらって、あ、そんなのがあるんだ！ ちょっと育ててみようかしらみたいなのを期待してるんです。そういうのを広めれたらサイコー。

—— 仲間内だけならしょうがないしね。

そうそう、それももちろんいいんだけど、畑が豊かになるといい。あとは自家製の発酵食品を持ち寄って、ランチしながらレシピの交換したりコツを教えあったりするランチ会議もします。それに各ショップで染め物とかワークショップをやります。体感型のお祭りにしたくて、みんなが参加できる、自分も主役というか、動きのある祭りがいいなーというのは1回目からずっとやっています。だからワークショップはいっぱいあります。

—— 街の中で単にモノを売って買うだけのイベントはいっぱいあるけど、そういうのはあんまり面白くないもね。

みんな一緒に遊びたくて、いろいろやります。みんなに会えるし、すごく嬉しいし、ほんとに幸せいっぱい祭りだしな。準備するときも地元の方とかといろんな出会いがあって。ハッピーな人が集まってきましたね、ハッピーなことやると。邪魔する人もいないし、こうなったらいいなーと思ってるとほんとにそうなるし。今回はこれはない方がいいなと思ってたら自然とそれができない状況になって、あ、よかったみたいなかんじで。(笑) みなさんに感謝感謝です。

ピースフル・ヒッピーマーケット
主催 旅スル珈琲屋 Jua&hair Jua
090-4610-5891 Sayaka
<http://peacefulhippiemarket.jimdo.com/>

←祭り会場を練り歩くドラムパレード

